

「卓越大学院プログラム」中間評価結果

機関名	大阪大学	整理番号	1812
プログラム名称	生命医科学の社会実装を推進する卓越人材の涵養		
プログラム責任者	熊ノ郷 淳	プログラムコーディネーター	森井 英一

(評価決定後公表)

<p>(総括評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ S:計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。 □ A:計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。 □ B:一部で計画と同等又はそれ以上の取組も見られるものの、計画をやや下回る取組もあり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。 □ C:取組に遅れが見られ、一部で十分な成果を得られる見込みがない等、本事業の目的を達成するために当初計画の縮小等の見直しを行う必要がある。見直し後の計画に応じて補助金額の減額が妥当と判断される。 □ D:取組に遅れが見られ、総じて計画を下回る取組であり、支援を打ち切ることが必要である。 <p>[コメント]</p> <p>大学院全体の改革を実現する卓越した学位プログラムの確立については、総長のリーダーシップのもとで大学院改革が組織的に行われており、国際共創大学院学位プログラム推進機構が駆動力になって大学院改革の中心的役割を果たしている。学際融合及び社会連携を目指した大学院教育システム（DWA A）を全学的に展開していて、本プログラムは横断型教育として先導的な役割を担っている点が評価される。</p> <p>修了者の高度な「知のプロフェッショナル」としての成長及び活躍の実現性については、SDGsなどの社会課題を念頭に置きつつ、ボーダーレス化した世界における社会的リスクを回避できるような人材育成が目指され、それがキャリアパスの開拓にも繋がっている。社会実装力教育が企業などからも評価を得ており、修了者の社会での活躍が大いに期待される。</p> <p>高度な「知のプロフェッショナル」を養成する指導体制の整備については、「社会と知の統合」の旗印のもと、専門分野の修得を基盤として、社会課題の解決にむけた「社会実装力」の涵養が実現しつつある。また、外部組織との連携協力によって俯瞰力・独自性あるプロフェッショナルの育成が目指されている点も評価できる。</p> <p>優秀な学生の獲得については、プログラム応募者数も含めて十分にその魅力が学内外に広げられていて、多様で優秀な学生のリクルートに成功している。学生自身によるSNSを通しての発信などによって新たな学生を集めることに成功している点も評価される。</p> <p>世界に通用する確かな質保証システムについては、カリキュラムの全学展開が着実になされていること、カリキュラムのモジュール化がうまく機能していること、多段階にわたる厳格な質保証（QE・ポートフォリオ・最終年次の修了審査）が的確になされて</p>

いることなどによって円滑に機能していると判断される。

事業の継続・発展については、自己資金獲得能力や、外部組織との緊密な連携協力関係などの面から大いに期待できる。教員・学生・企業の連携関係が非常によく工夫されていて、このような新しい産学連携の在り方が事業の継続性や発展性に寄与することが期待される。